

議事録

令和元年度第1回島根県企業局経営計画評価委員会

日 時 令和元年7月30日(火)

14:00～16:00

場 所 島根県民会館 307会議室

○委員長

きょうは、新たなメンバーが加わって、本当にさまざまな分野からの委員さんの構成になってございまして、それに伴ってもそうなんですけれども、資料が非常にわかりやすい資料になってございまして、読みやすい、そして、理解するのに非常にわかりやすいカラフルな資料もつくってございます。先ほど企業局からPR活動の話が出ましたけれども、やはりそれに従って、企業局のイメージがさらにわかりやすく資料づくりをしていただいているというところでございます。我々の大学でも、今、エコキャンパス推進部会というのをちょっとつくっておまして、いかに電力を下げていくとか、今そういった委員会をつくってますけれども、またそういった委員会の中に企業局の方にちょっと御説明しに来ていただきたいなというふうに思ってます、こうやってどんどんどん企業局の今までのいろんな活動が一般の県民の皆様にご覧いただくという意味でも、そういったPR活動、非常にわかりやすい資料づくりをしていただいているなというふうに思ってる次第でございます。きょうは、短い時間でございますけれども、ぜひ、活発な討論、そして、さまざまな御意見をいただけたらなというふうに思ってるところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして会議を進めたいと思います。

議事の(1)平成30年度各事業の実績について、それから議事の(2)平成30年度各事業会計決算の概要について、そして議事の(3)企業局経営計画、平成30年度の取り組み状況について、事務局から一括して説明をお願いします。

[事務局説明]

○委員長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、皆さん、どんな意見でも構いません。御質問でも構いませんが、よろしくお願いいたします。

どうぞ。

議事録

○委員

こうして発表していただいたところを読みますと、かかわったところが少しあるな
ってというのが気がつきました。森づくり事業、植栽ですけれども、広瀬町の比田地区
の山林なんですけれども、あてがわれた、きょうは何本植えましょうっていう、クリの
木がほとんどかな、ドングリのような木を植えておりますが、10本植えたらワラビ
とろうねとか、毎年3人、4人、団体で参加しております。これも水に係る事業
ですっていうことを聞きまして、じゃあ、一つ貢献してるのかなと思っております。

それから、安来市の事業として、もう相当前からなんですけれども、水質検査を試薬を
いただいて、安来市で今のところ、30回ほどなるかな。私の地域では22カ所、そ
れに広瀬地区が入りますので30地区、30まではいかないかもしれませんが、の水質
検査をやっております。以前にして、8年ぐらい前までは安来市の車で回って、それ
に便乗して乗ってその作業をしてございましたけれども、安来市がもう車もちょっと悪く
なったっていうことで、婦人会のほうへ事業を回っていただいて、婦人会だけでやっ
ております。ですから、車をレンタルで借りてもいいし、自分たちの車をちょっと出
していただいて、油代から何から計算したものをいただいて、事業として引き継いで
からは8年ぐらいになります。これも続けてやっております。これで何か少しこっち
にも貢献してるのかなと。水質検査の結果は私たちにはわかりませんが、試薬
の結果を表にまとめて市役所の環境課のほうへ提出しております。

以上です。失礼いたしました。

○委員長

ありがとうございました。

どうぞ。

○企業局

2点ですね。まず、森づくり事業、今、写真にもございますけれども、ゴールデンウイ
ーク中に御参加いただきまして、まことにありがとうございました。毎年度やりますの
で、また御参加のほどよろしくお願ひします。

それから、水質検査につきましては、これは多分カルキの濃度だと思います。試薬を使
ってやっておられるということですね。法律で、蛇口のところで0.1ミリグラムパ
ーリットルと決まっていますので、その検査を多分委託されていると思いますけども、
大事なことでありますので。我々は、市のほうへ送るまでが仕事でございますが、送

議事録

った先、今度は市のほうから皆様の御家庭へです。その先までも法律でその濃度が決まっておりますので、積極的に参加していただければ、これが安定供給につながりますので、今後もひとつよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか、ありますでしょうか。

どうぞ。

○委員

すみません、これは以前も聞いたことですが、資料3の水道事業のところ、漏水のところなどを特定したりだとか、かなりマンパワーを使ってやられてるときもありますが、そこら辺は、昨今はIT機器などを使って特定しとられますけど、松江市の水道局さんもかなりその辺投資して表彰なんかされてるようなんですが、ちょっとそこら辺は設備投資にも係るところかもしれません、この辺の、要するにセンサーのほうですね。きょうもドローンなんかを使った空撮などもやられるところを見せていただけるということなんです、この辺のIT化に関して、何か計画だとかあれば教えていただければと思います。

○企業局

今現在、直接そのITでどうのこうのという計画は立ててませんが、先ほど施設管理基本計画というちょっと言葉が出て、これは、今後の更新とか、それから修繕、大規模修繕並びに耐震化も含めて基本的な考え方を主に、さらに中期事業計画といって今後20年間、何をしましょうかという計画も、水道はこれからなんですけど、立てるということになっています。その中で、当然受水団体、松江市さんとか出雲市さんとかいろいろいらっしゃるわけですけど、受水団体の皆さんとも協議しながら必要なことはやっていくということになりますので、その計画の中に今おっしゃったようなITも含めて入れるというのは当然あるかもしれません。ただ、今現在、具体的にそれが定まっているかという、まだそういう段階にはないということですけど、考え方には入れておきたいというぐあいに思っております。

○委員

それと、すみません、ちょっと関連することなんですけども、その決算のところ、そういう今後の事業での設備投資などを考えれば、更新だとか新規投資とか必要になって

議事録

くると思うんですけども、その決算のところではその点は含まれて計算をされて、いるのか、例えば、決算のところでは減価償却費などが入ってますけども、長期計画もあるようですが、そこら辺の単年度の決算のところと長期計画でかかるお金の関係というのは、どういうふうに見ればよろしいのでしょうか。

○企業局

もちろん、施設管理基本計画に基づく中期事業計画で年度ごとの投資計画が組み込まれていくものですので、その償却開始年度からの減価償却費というのは織り込まれてきているので、そういうものであると減価償却費も含めて費用が幾らになるかというところで、料金もいただいておりますので、絶えずその投資、償却費、どんな推移をしていくかということは検討しながらやっておるところということでございまして、今、償却費も、過年度に行った、あるいは当該年度に行った設備投資も含まれてるということでございます。

○委員

わかりました、ありがとうございます。

○委員長

そのほかございますでしょうか。

どうぞ。

○委員

資料の1と2のところですけれども、資料1の一番最初のところで、水力発電の平成30年度の目標電力と供給実績というのがございますが、一応、約1.6倍というようなことで目標を上回っているということが記載をされておまして、風力は少し下回った、太陽光は少し上回ったという結果になっているんですが、資料2の、やはり冒頭のところの、表のところの、うち水力発電電力量、お金の換算した収入ということでしょうけども、これは29年度に比べて5億7,000万ですか、水力発電、減っている。風力は少し減った量が少し増えてるというような動きになってるんですが、ちょっとこの水力発電については、目標を大きく上回っているにもかかわらず大きく減収という結果になってますが、ちょっとこのところの、とまっていたというのがあるんだらうと思うんですけども、このあたりについてちょっと詳しく教えていただければと思います。

○企業局

議事録

決算の数字は前年対比の数字になるんですが、資料1の数字というのは、目標電力量に対する供給実績ということにして、そもそも平成30年度の目標電力量の設定というのはリニューアル停止を行うということも含んだものの中で、どうだということをございまして、したがって、もともと発電量が低くなるという目標に対してこれだけ成果が上がったという見方をございまして、必ずしもそれと決算の前年対比とはちよつとまた違うということをございますので、その辺は御理解いただければと思っております。

○委員

そうしますと、目標を上回ったということは、本来もう少し減収になっていた可能性もあったけども、多少ましだったというふうな捉え方でよろしいでしょうか。

○企業局

そういうことをございますね。

○委員

わかりました。

○企業局

これは、水力発電で、当初、平成30年の目標電力を立てたときと、それから実績がこうやって違ったのは、最大の原因は、いわゆるいついつまで運転します、もしくはいついつから運転します、その時期がずれたというだけの話なんです。もうこれだけの話です。ですので、あと、若干雨とか、いわゆる流況と呼びますけど、その水の流れがよかったり悪かったり、それは河川ごとに、水系ごとに違いはありますけど、基本的には何で違うかっていえば、今私のお話しした、当初計画していたリニューアルがずれたということが最大の理由ということになります。

○委員

わかりました。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか。

どうぞ。

○委員

資料1の一番最後の4番目の宅地事業の関係なんですけども、平成30年度に江島工業

議事録

団地が全部売れて完売ということなんですけども、一応土地としては売れたんですけども、これの分譲開始が昭和58年ですから、全部売り切るまでにざっと36年かかって、非常に長期にわたる事業なわけなんですけども、これ全部売り切った時点で、この団地分譲事業としての収支ですね。当然、工業団地ですから、土地を取得して、これがコストになるんですね。一方、売って収入と。コストと収入との帳尻といいますか、収支の結果ですね。これをはじめていらっしゃるのでしょうか。

○企業局

すみません、ちょっと正確には手元にはございませんが、数百万の黒字ということで……。

○委員

黒字。

○企業局

でございます。

○委員

じゃあ、一応、売買価格の相場が取得価格を上回ってるということですね。

○企業局

はい、そういうことです。会計として若干の黒字を計上しています。

○委員

ただ、非常に長期にわたる収支ですので、当然、取得価格の場合、土地を取得した資金というのは長期の借入資金なんですよね。それで、30年以上借りていますと、当然金利がつきますよね。そういった元利合計を踏まえた上でも、なおかつこれが黒字で出てるということですか。

○企業局

今の1万4,300円という分譲単価なんですけども、過去にそういったところを踏まえて改定をしております、それによって、絶えずそこら辺を踏まえながらここに至ってるというところで、直近はこの1万4,300円なんですけども、最終的には黒字、かつかつの黒字になってる、見込みだということでございます。見込みというのは、ちょっと2社ほど割賦販売の企業さんがございますので、その辺を最終的に10年後で整理すると、そういう黒字になるということでございます。

○委員

一応、取得価格が簿価なんです。売るときは時価で売ってるわけですね。取得価格が

議事録

簿価で、会計上、計上してらっしゃって、売るときになったらそのときの時価でってわけですね。そのトータルとして黒字が出るということですか。

○企業局

そうですね。

○委員

なるほどね。ただ、簿価の場合、取得したときのお金の価値と土地が売れたときのお金の価値って違うわけですね。当然金利が下がりますので、だから現在割引価値に換算しないと正確な数字は出ないと思うんですけど、そこら辺の仕組みは、そこら辺のからくりがあつてですね。なかなか厄介なことはあるんですけども、そういった割引価値に換算しても黒字が出てるという理解でよろしいでしょうか。

○企業局

今後適宜、取得の簿価と、あと造成費とか、あるいは管理費、そういうものを乗せていって、適宜料金に反映して、その都度その都度売ってきたところの経緯がございますので、直近の料金で回収できるということでやっています。

○委員長

よろしゅうございますか。

江津の地域拠点工業団地の資料3ですが、これ、H、I、Jのところまで点線が入ってございますけれども、これはさらにF、Gに続いてH、I、Jまで将来的にはつながるといふ、攻め込んでいこうという、何かそういう理解でよろしゅうございますか。

○企業局

この資料3の右下の写真のところですね。

○委員長

はい。右下の写真のところに、FとGまでは御説明いただいたんですが、図らずもH、I、Jに点線の部分が入っておりまして、かなり広大な土地かなというふうにならんとお見受けして、そうすると、将来的にH、I、Jまで打って出ようっていう、そういう意気込みで理解してよろしゅうございますか。

○企業局

この江津の拠点工業団地の区画というのがあらかじめ決まっております、これがH、I、Jまで含むところが工業団地の範囲で、ただ、造成工事につきましては、やっぱり企業の進出動向のことを見きわめながら実施をしているところです。また、ちよっ

議事録

とこの後、御説明もさせていただきますが、こういった区画等につきましては、第1期造成工事のところは8割以上の分譲率になって企業進出いただいておりますので、次の造成にかかっているというところでございます。H、I、Jについては、また今後の動向を見きわめながらということとしております。

○委員長

ありがとうございました。

そうしますと、時間がちょっと押し迫って、次がございまして、時間の制約がございまして、次の議題に入らせていただきます。

続きまして、議事（4）各事業の取り組み状況について、事務局から順次説明をお願いいたします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。

さあ、これで各事業の取り組み状況を御説明していただきましたが、何か、ただいまの説明について御意見、御質問等、お願いいたします。

どうぞ。

○委員

最後の資料の説明に興味深い、こういう取り組みを進めているということで、評価される所々であります。実は、先ほどもIT化の話をしたのが、水道事業が民営化の話が出てくるようになって、民間企業が技術革新への対応が早いからというのがあると思いますね。ただ、結局その分は後で料金に上乗せされてしまうわけですけども。ですので、やっぱり水道事業は生活の基盤ですので、民営というか、こういう行政が責任を持ってやっていただく。今後、人口減なんかに対応して、こういう点は非常に重要かと思いますが、あわせて、やっぱり技術革新への対応をどうするかということも、この取り組みとあわせて、ぜひ御検討いただければというふうに思います。これは今後の要望ですけど、よろしく願いいたします。

○企業局

おっしゃったとおりでありまして、今後、そういう場を県として設置して取り組みを進めてまいりますので、その中で当然のごとく、そういった技術のこともやっていきたいと、やっていかれると思っております。

議事録

○委員長

ほかに御意見ございますか。

どうぞ。

○委員

すみません、資料5のところのPRの関係なんですけど、10番のPRグッズ、今これ、三角、見直ということになってるんですけど、これは今、メモ帳とかボールペンがあるのがなくなったら、今こちらに書いてある4点に代わるってということでしょうか。

○企業局

そうですね、検討はもう進めます。そのなくなるまでのとこでやっておかないとつながりませんので。

○委員

ビニール袋ってというのは、今、レジ袋みたいなのところのイメージでいいんでしょうか。

○企業局

今まで、いわゆるエコバッグでいろいろグッズを持って帰っていただいたんですけど、そのエコバッグが大きなものであれば買い物とかに使っていただければいいんですが、なかなかそういうものでないので、であるならばもうちょっと簡易なものでいいんじゃないかという発想で上げさせていただいております、具体的にどのようなものをするかはまだこれから検討をさせていただきたいと思います。

○委員

何かぱっと見た目に、もしかしたらレジ袋みたいなものかなと思ったんですけど、もしそうであれば、今ちょっといろいろレジ袋等は問題になってるので、その辺のところはまた考えていただければなと思いました。すみません。

○企業局

ありがとうございます。検討させていただきます。

○委員長

ありがとうございました。

そのほかございませんでしょうか。

じゃあ、どうぞ。

○委員

これは意見じゃないんですけども、一言、企業局さんにお礼が言いたくて、ちょっと言

議事録

わせていただきます。

ことしの10月末に、私たちの会が、全国大会がございます。それで、企業局さんが、私が携わってる関係上、いつもお水を目にいたしまして、企業局さんに相談で、お水を何とかしていただきたいというか、お願いをしたんですけども、快く引き受けていただきまして、2,500本というような大きな数を提供していただきました。企業局さんのためにも、島根県のためにも、このペットボトルのお水を企業局さんがつくってるということで、全国の来ていただいた皆様に宣伝をしっかりとしていきたいと思います。本当にありがとうございました。お世話になります。

○委員長

ありがとうございます。

ほかに御意見ございませんか。

今後の企業局全体にわたる内容についても結構でございますので、何か意見を言っただけたらと思いますが。

どうぞ、どうぞ。

○委員

私もぜひ。

先ほどいい話が出ましたけど、私も非常に企業局さんというところというのが、大体どういう活動をしておられるのかということ全く、多分一般の方たちは誰も余り分かっておられない方が多いと思います。私もその一人でした。今回こういうことに参加させていただいて、本当によく分かりました。先ほど企業局さんが災害のお話をなさいましたが、水というのも、本当に災害でみんなをのみ込む力もあります。それから、風もだと思えます。ですが、こういうすばらしいことをしておられるということが非常によく分かって、どんどんもっと努力をしてやっていただきたいなと思いました。こうして皆さんの話を聞いてると、本当に皆さん自分のこととして答えられるので、私はとても立派だなと思いました。私、いち個人の意見ですが、給料カットとかよくありますけれど、私は本当に技術・資格を持った方とか一生懸命やっておられる方に対しては給料カットということはやめて、ちゃんとした給料を出すべきなんだと、あくまでも個人的な意見ですけどね、思いました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

議事録

そのほかございますでしょうか。

工業団地の造成なんかも昭和58年あるいは昭和59年から長きにわたって努力をされて、100%あるいは86.2%までこぎつけていらっしやって。私がこの委員になったのが1年ぐらい前ですけれども、とても100%は無理だろうっていうのはちょっと思ってたんですが、ここまで努力していただいた、そして、あるところからぐっと臨界点を超えて100%まで持っていかれた努力、多分いろんな部署との協力関係でこういったことができたんじゃないかなっていうこと。

それから、今おっしゃったように、PR活動が今回非常にわかりやすい表までつくっていただいて、そしてQRコードを出せば、これがロングバージョンとショートバージョンが出てくるように、いろんな、さまざまな、打って出てるなっていう努力されているのがよくわかりまして、企業局として本当にバージョンアップした形を見せていただいたなっていうふうに思っているところでございます。企業局におかれましては、本日の各委員の御意見についてまた十分に御検討していただいて、今後の企業局の業務運営に生かしていただきたいと思っております。

そろそろ時間が参りましたので、本日の議事を終了したいと思います。委員の皆様方には、議事進行に御協力いただき、大変ありがとうございます。それでは、これで終わらせていただきます。